



UNMISS

国連南スーダン共和国ミッション

南スーダンの未来に貢献したい！

UNMISSに参加している日本隊は、独立したばかりの南スーダン共和国の国造りのため、インフラ整備の一環として道路整備、敷地造成などを行っている。国連事務総長、南スーダン大統領をはじめ多くの国などからPKOにおける日本隊の活動は以前から高く評価されており、今回のUNMISSにおける日本の施設隊にも大きな期待が集まっている。当ミッションは、必ず南スーダンの未来のためになると我々は信じている！

第4次要員施設活動

現在活動中の第4次要員約330名は、西部方面隊（九州）第5施設団の隊員を中心に構成。平成25年5月に防衛大臣から派遣施設隊の活動地域拡大に関する自衛隊行動命令が発出されたことにより、派遣施設隊の活動地域は、これまでのジュバ及びその周辺に加えて東及び西エウアトリア州にも拡大された。そのため4次要員は、ジュバ周辺での施設活動を行いつつ、活動地域拡大のための準備を実施中である。



首都ジュバ周辺の道路整備



ボンコロギ小学校簡易歩道橋完成



夏祭り行事における太鼓演奏



首都ジュバ周辺の道路整備



国連施設内の整備



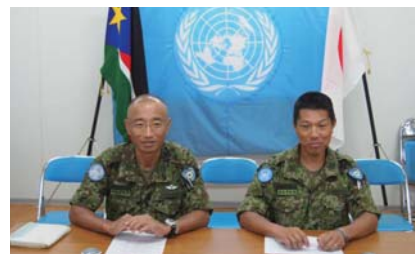
首都ジュバ周辺道路の整備



首都ジュバ周辺の道路整備

現地支援調整所が、派遣施設隊宿営地に移転

現地支援調整所（所長 1等陸佐 土屋晴稔）が8月4日、いままですべての拠点としていた近隣のホテルから派遣施設隊宿営地へ移転した。拠点が施設隊と一緒にしたこと、意見交換・調整を容易に実施できるようになり、相互により緊密に情報共有を図れるようになった。



TV会議中の所長（左）と隊長（右）

オーストラリア軍の要員との連携（日豪連携）

平成24年8月31日から、2名のオーストラリア軍の要員が現地支援調整所において勤務し、国連を含む関係機関との連絡調整支援の業務などを日豪間で連携・協力している。



豪軍と実施した登山訓練の一コマ

陸上自衛隊 Central Readiness Force 中央即応集団



隊長コメント

現地住民との交流

派遣施設隊は平成25年8月31日（土）、ジュバ市内にあるCCC孤児院（Confident Children out of Conflict 紛争を抜け出した尊厳ある子どもたち）の子どもたちと交流した。本孤児院との交流は1次要員から継続的に実施しているものであり、今回は孤児院で暮らす少女約40名と施設隊員36名が参加し、和太鼓演奏、折り紙、あやとり、竹馬等の日本の伝統的な遊びやパレーボールをして触れ合った。少女たちは太鼓演奏にあわせて踊ったり、手拍子をとったりと興味津々の様子で、当初は緊張で、ぎこちなかった表情も、時間の経過とともに和らいだ。最後に、隊長から孤児院に福岡県の協力者等から寄付されたぬいぐるみを慰問品として贈呈した。子どもたちの代表として、上級生の少女が「太鼓は良かった。一緒に遊んでくれて、たくさんのことを教えてくれて嬉しかった。ぬいぐるみもありがとうございました。今日は来てくれて本当にありがとうございました。」と述べ、全員が笑顔で「ありがとう」と日本語で声をあわせた。

今回参加した隊員の大半は、日頃はあまり宿営地外に出る機会のない、整備や調理等の後方支援活動に従事する隊員だった。今回の宿営地外での活動を通じ、少女たちの明るい笑顔に元気を分けてもらった様子で、「残りの派遣期間も頑張ろう!」と明日への活力を得た。



パレーボールで遊ぶ隊員と子供



ぬいぐるみをプレゼントする隊長



集合写真



太鼓部と子供たちとのセッション



あやとりを教える女性隊員

活躍する女性自衛官たち

現在、南スーダンでは、女性自衛官も男性に交じって活躍している。炊事や衛生面だけではなく、バケットローダーの操縦など、男顔負けの力で、南スーダンの国造りの一役を担う反面、ボランティア活動や夏祭りでは、女性ならではのやさしさや、きめ細やかさを発揮して、現地の人々との交流を図るなど多方面で活躍している。



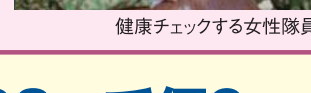
バケットローダーを操縦する女性隊員



クレーン作業を支援する女性隊員



夏祭りでの女性隊員



健康チェックする女性隊員

UNMISSって何?

UNMISSとは、南スーダン共和国に展開する国連平和維持活動（PKO）の一つであり、司令部は首都ジュバにある。約7000名から成る軍事部門の人員と、約900名から成る文民部門で構成。任務は①平和定着、長期的な国造り及び経済開発に向けた支援②紛争予防・緩和・解決及び文民の保護に関する南スーダン政府への支援③安全の提供、法の支配の確立、治安・司法部門改革に向けた南スーダン政府への支援

自衛隊派遣の経緯と派遣の意義は?

部隊派遣の経緯は、2011年7月9日の南スーダン共和国の独立に伴い、国連安保理決議第1996号に基づき国連南スーダン共和国ミッション（UNMISS）が設立された。翌月、国連事務総長より自衛隊施設部隊の派遣要請を受けたため、現地調査等を経て、12月20日、施設部隊の派遣が閣議決定され、2012年1月から部隊を派遣。もともとはスーダンの内戦が終結した後の2005年3月、和平合意の履行支援、難民・国内避難民の帰還の促進・調整等を任務とする国連スーダンミッション（UNMIS）が設立され、日本からは、2008年10月から2011年9月までの間、延べ12名の自衛官を司令部要員として派遣していた。南スーダン共和国独立に伴いUNMISの活動は終了し、UNMISSが設立。

部隊派遣の意義として、これまでPKO等で実績のある、高い能力を有する陸上自衛隊の施設部隊がインフラ整備という目に見える形で南スーダンの国造りに協力することにより、南スーダンの人々の生活向上に貢献できるものと考えている。

南スーダンってどんなところ?

2011年7月9日に、スーダンから分離独立してきたアフリカで54番目の国で、国土は日本の1.7倍あり人口は約1000万人。日本からの距離は約12000キロ。北にスーダン、東にエチオピア、南にケニア、ウガンダ、コンゴ（民）、西は中央アフリカと国境を接する国で海がない内陸国。約20年間の内戦により、インフラの整備が進んでいないため、道路は荒廃し、ナイル川に架かる橋は1本しかない状態。



© 国連UNMISS

最前任上級曹長のコメント

准陸尉 武本文彦

この国の、混乱した内戦で孤児になった、スラム街や路上で生活していた3歳〜17歳の女の子約40名が生活しているCCC孤児院の子どもたちと和太鼓演奏、日本伝統の折り紙、あやとり、竹馬等を紹介するとともに、パレーボールで一緒に遊び、2時間のふれあいを待つことが出来ました。最初は、お互いが硬い表情でしたが、時間の経過とともに仲良く楽しい時間を共有でき、お互いが癒されたひとときでした。この活動が子どもたちの記憶に残り、20年後の南スーダン復興の主役になって欲しいと祈りつつ、握手をして活動を終わりました。残りの派遣期間もできる限り時間を作り、活動していきたいと思っています。

活動の軌跡

1次要員 (H24.1月~6月)

隊長 2等陸佐 坂間 輝男

中央即応連隊（本部：栃木県宇都宮市）が基幹となった部隊編成であり、宿営地における生活基盤の整備、維持・運営と、ジュバ及びその周辺における道路の補修・整備等を実施。特に、1次要員は、何もない状態からのスタートであるため、食事はレトルト、風呂・シャワーも制限、酷暑地域での天幕生活など、厳しい環境の中でも耐え抜き、2次要員の活動のための基盤を構築



仮宿営地設営のための計測



現地の子どもたちに文房具を贈呈

2次要員 (H24.6月~12月)

隊長 2等陸佐 松本 信孝

北海道の第11旅団（司令部：北海道札幌市）が基幹となった部隊編成であり、ジュバ及びその周辺における道路の維持・補修、軽易な建設等の施設活動と、自隊の活動基盤の維持・整備を実施



首都ジュバ周辺の道路修復作業

3次要員 (H24.12月~H25.6月)

隊長 2等陸佐 持田 将貴

東北の第9師団（司令部：青森県青森市）が基幹となった部隊編成であり、宿営地の整備及び機能を維持しつつ、質の高い施設活動により、南スーダンの国造りのための本格的な活動を実施



横断歩道整備ボランティア

4次要員 (H25.6月~)

隊長 2等陸佐 梅本 哲男

九州の第5施設団（本部：福岡県小郡市）が基幹となった部隊編成であり、本来の施設活動を実施しつつ、活動地域の拡大のための準備を実施中



首都ジュバ周辺の道路整備



夏祭り行事における各国の招待者

そして5次要員へ.....